



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



「新求道期間の道」の日本の責任者を招いて説明会

10月定例司祭集会

郡山司教は、十月二十三日(火)に開かれた定例司祭集会に「新求道期間の道」の日本の責任者を招き、教区の司祭団に彼らの活動内容を説明してもらった。これは、今年六月にスペインからの「宣教家族」を小宿教会に派遣していることもあり、教区司祭団にこの活動の内容を正しく理解してもらうのがその目的。

招かれたのは、グレゴリー神父、アントニオ神父、それに信徒のマリア・ピラさんの三人。グレゴリー神父は「自分が体験していること話す」と前置きし、「幼児洗礼でありながら、色々な事情で教会から離れ、まったく世俗的な価値観で過ごしていた青年の時、この仲間とある小教区で出会い、四年程のカテケージス(信仰の響き合い)を受けるうちに十字架のキリストの示された愛と一致を生きる大人の信者に変えられていった」ことなどを話した。また「このような

信仰的成長過程はこの道を歩んでいる人には共通のことであるが、ただ、この道に出会うまでは洗礼の意味を本当は分かっていた。だから『聖書の調べ』に基づくカテケージスを通して大人の信者に変えられる」と語った。

説明の後、質疑応答がなされたが、何人かの司祭がこの共同体に対して抱いている疑問を投げかけ説明を求めた。ある司祭は「自分たちも宣教師として来日

司祭評議会で来年の重要課題を審議

十月二十二日に開かれた司祭評議会は、(旧)来年十一月に長崎で行われる「ペトロ岐部と一八七殉教者」の

口岐部と一八七殉教者」列福式への教区としての対応について、(旧)来年の「教区フェスタ」と「教区評議会」の開催について審議し、以下のように決定した。

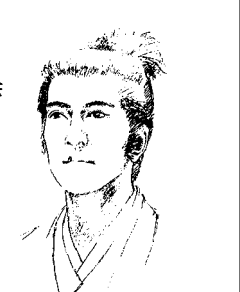
「ペトロ岐部と一八七殉教者」列福式への参加については、開催日の十一月二十四日(振り替え休日)午後一時から四時にあわせて、「日帰りコース」「二泊コース」「二泊コース」など、より多くの人が参加

し、同じようなことをしてきたのになぜ、その実りに違いが出るのか。ただ、新求道期間の道の熱心さは認める」などの発言があった。誕生後わずか四十数年で、世界中に七十の大神学校を持ち、またこの道を歩む人は約百万人と言われているこのグループだが、この爆発的な発展の裏には教皇の力強い後ろ盾と同時に聖霊の働きも見逃せない。

川内殉教祭

2007年 11月18日(日) 場所 川内カトリック教会

- 1時 Sr.山頭信子 レオ税所七右衛門物語
- 1時30分 ミサ (郡山司教)
- 3時 巡礼 京泊ロザリオの丘へ



陸亨の殉教祭 レオ税所七右衛門

お問い合わせ TEL 0996-22-3738 川内カトリック教会 FAX 0996-22-4654

区評議会」の開催については、それぞれ一年交代で実施することになった。従って、来年は「教区評議会」開催の年となる。

また、教区評議会は鹿兒島と奄美大島で開催され、それぞれ、鹿兒島(十月十九日)、奄美大島(十月二十六日)、と決定された。テーマについては、来年の世界代表司教会議のテーマでもある「みことばと宣教」(仮称)になった。さらに、教区評議会が豊かな実りを結ぶためには「教区評議会準備委員会」をつくり、そこで、このテーマを如何に効果的に信者一人ひとりに浸透させることができるかなどを深く検討することが必要であるという点などが合意された。

いのちを与えるミサには 頭島神父が定例司祭集会で報告

十一月二十三日に行われた定例司祭集会で、頭島神父(教区典礼委員長)は全

国典礼研修会の報告を行った。それによると、二〇〇四年に教皇庁典礼秘跡省から発布された指針「あがないの秘跡」の目的と狙いは、第二バチカン公會議が目指した典礼の刷新にはこの四十年間に必ずしもよい成果だけではない、悪い結果もあり、教会に混乱を引き起こしている事実を指摘し、それを改善する責任が教会にはあること。

新風 一筋の道

イエスは言われる。「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言ひ表す者は、わたしも天の父の前で、その人を私の仲間であると言ひ表す」(マタイ10章32節)。この言葉は生涯の終わりに審判者である神の前に出るようになるわたしたちキリスト信者の状況を示唆しています。自分の救い主としてキリストを受け入れ、彼の教えに従い、彼の口から出ることはとからだに生かされて生きていくわたしたちは、この世にいる間、人々の前で、「私はキリストの仲間である」と言ひ表さなければなりません。「言ひ表す」こ

とは「宣言する」ことだと主張する有名な司祭がいますが、「わたしが暗闇であなただけに言うことを明らしてみたい。耳打ちされたことを屋根の上で言い広めなさい」(同上27節)、というイエスの

この月、亡くなった方々の永遠の安息を祈るとともに、自分の死に対する心構えも新たにします。さて、今年から日本の教会ではこの月に新しい風が吹きわたります。「ペトロ岐部と一八七殉教者」の

列福がそれです。特に我らがレオ税所七右衛門の命日は十一月十七日ですから、私たちの信仰の証と死との繋がりについて黙想できませぬ。彼は自分がキリストの仲間であることを宣言したことで、殺さ

れる羽目になった人です。洗礼から殉教まで、そう単純に物事が進んだわけではありません。多くの苦渋の選択の末、このような結末を迎えたのです。最後まで彼の心を支えていたのは、「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も滅ぼすことのできる方を恐れなさい」(同上28節)というイエスの言葉だったのではないかと私は思います。

レオ税所七右衛門の列福はわたしたち一人ひとりに信仰の質を問いかけているようです。(H・N)

また、悪い結果をもたらしている原因の一つには、典礼刷新のあり方として、

「一緒にいてくれてありがとう」これは出産を終えた妻の最初の一言だった。前日の午後陣痛と思ぼしきものが始まり、病院へと駆け込んだのがその一時間後。そして十二時間にもものぼる痛みとの戦いの後、新しい命の誕生を見た▼傍らにいて、実に男は無力だということと女性の強さを感じ取った。出産後の妻は数時間もの間、立つことも、単に呼吸をするというのにもまなならない。体中の、そして何となく歯を食いしばったせい、あごの筋肉までもが痛いという。今でもあの時の「痛い、痛い、痛い」と叫ぶ声が耳から離れようとしていない。そして自分もこうして人を苦しめた挙句に命をもらった。「なのに...」やり直せない人生をちよっぴり恨んだりもする

▼数日後、その子を「寛大(かんた)と命名した。もちろん親の勝手な希望で、どんなことがあっても他人にやさしくできる人に育って欲しいと考えたからだ。でも「悲しみの数だけ人はやさしくなれる」と、歌う人もいる。そうだとしたら子どもにとんでもないことを願ってしまったのかもしれない。あとはただ困難の時にこの子を支えてくれるものを与えてあげられない、そう思う。守護の天使の記念日(十月二日)に生まれた寛大、いつか願いが叶う日には、「それでも」の思いで生かされるよう洗礼名を「アンジェロ」(天使)としてあげたい。

さまざまな慣習の中に神の心を見る

1、構成

※リーダーによる説明 (15〜30分)

※参加者を温かく迎える

※主をお招きするための祈り

※今日の講座の流れを説明

※分かち合いのルールについて

テンバの体験を朗読 (ゆっくりと間をおいて二回読まれます)

『テンバは老人です。彼は自分の共同体の中で非常に尊敬されていて、何か問題が起こるたびに呼ばれていました。しかし、テンバは教会が嫌いでした。キリスト信者の隣人と自分たちの国の昔からの風習について激しく言い争ったことがあります。彼は、キリスト信者が昔からのいろいろな慣習を悪魔の業だと言いつつ見下しているとしてキリスト

ト信者を非難しました。そう言う彼に対して、多くのキリスト信者はうまく答えることができませんでした。みんな反論はするのですが、自分たちも確信がありませんでした。』

問いかけ (まず五分間それぞれ自分を振り返り、必要に応じてメモしてください)

① 私たちの周囲から「非常に尊敬されているおじさん」がいますか? (おばさんでもいいですが) いなければ、昔いましたか? いつごろからいなくなりましたか? なぜいなくなったのでしょうか?

② わたしたちの「慣習」や「伝統」にはどのようなものがありますか? 今の社会にそれが失われつつあるなら、それぞれの属する集団(例えば「家庭」「学校」「職場」「地域社会」「教会」)での「慣習」「伝統」を振り返るといでしょうか。そして、キリスト教会はこうした「慣習」や「伝統」に、どのように対応してきたと思いますか?

※小グループに分かれての分かち合い。自分の生き方と照らし合わせて(各問いかけについて10分、全体では30〜40分)

※質問は一つずつ、分かち合いと報告をしながら進んでいきます。

テサロニケの信徒への第一の手紙五章14節〜22節を読んでみましょう。

北薩地区宣教奉仕者養成講座②

出水教会主任司祭 大松 正弘

ものがありませんか? 今の社会にそれが失われつつあるなら、それぞれの属する集団(例えば「家庭」「学校」「職場」「地域社会」「教会」)での「慣習」「伝統」を振り返るといでしょうか。そして、キリスト教会はこうした「慣習」や「伝統」に、どのように対応してきたと思いますか?

※19節〜22節を何度か繰り返し読んで読みます。

※わたしたちが自分の中の「聖霊の働きをばね」危険に陥るのはどんなときでしょうか? (隣同士での分かち合いと全体での発表)

4、祈り(自分を神の前に置き、振り返る。10〜15分)

聖霊は今もわたしたちを導き、わたしたちの目を開き、見えるようにしてください。わたしたちは神に向けて自らを開き神のまなざしですべてのことは神に見られるように求めています。

わたしたちの生活の中で何が良く、何が悪いかを見分けることができま

すように。



新書 『雨だれの音が聞こえる』

著者の田ノ上淑子さんはザビエル教会所属。「隣人の影」で二〇〇六年度の南日本文学賞を受賞している。

「神の御旨のままに」と祈る余裕はない。神よ、御旨の中に夫の命は助かると入れてください(本文から)は、著者の必死の願い。突然病に倒れた夫に付き添い、自宅介護に至るまでの五年間の苦闘の日々を赤裸々に綴ったドキュメンタリー。 高城書房 定価千五百円(ザビエル書院でも発売)

+KABAYAN SEKSIYON+ "Ang Banal na Kasulatan"

Sa pangatlong artikulong ito ang pagninilay-nilayan natin ang ang tungkol sa Banal na Kasulatan o tinatawag na "Bibliya". Ano ang Banal na Kasulatan o Bibliya, bakit tinawag na "Banal na kasulatan"? Ano ang kaugnayan nito sa ating buhay pananampalataya, at ito ba'y kailangan natin? Ang kasagutan "Oo" kailangan natin ito at mahalaga ito sa buhay natin. Kaya ang bibigyan natin diin sa buwan ng Nobyembre ay "Si Kristo-ang bukod-tanging Salita ng Banal na Kasulatan". Para ipahayag ang Kanyang sarili sa mga tao, sa kababaang ng kanyang kabutihan, ang Diyos ay nagsabi sa kanila sa salitang-tao: "sa katunayan ang salita ng Diyos ay nagpahayag sa salita ng tao, at sa bawat kilos ay tulad sa wika ng tao, tulad ng Salita ng Ama, ng kanyang tanggapan sa sarili ang kahinaan ng taong-laman ay naging tulad ng tao." Sa kalahatan ang salita ng Banal na kasulatan, ang Diyos ay nagsabi lang ng isang Salita, ang kanyang kaisa-isahang Binigkas na kung saan ay ipinahayag niya ang kabuoan ng kanyang sarili: "Siya nga ang ningning ng luwalhati ng Diyos at tatak ng kanyang nakatagong pag-iral, na umaalalay sa lahat sa bisa ng kanyang salita" (Heb 1:3). Dahil sa rason na ito, ang Simbahan ay palaging ginagalangan ang Banal na Kasulatan tulad ng paggalang niya sa Katawan ng Panginoon. Ang simbahan ay hindi nagsasawang ipakilala sa mga nanampalataya ang tinapay ng buhay, na kinuha galing sa isang lamesa ng Salita ng Diyos at ng Katawan ni Kristo. Sa Banal na Kasulatan, ang Simbahan ay palaging nakakukuha ng kanyang pagkain at lakas, dahil tinatanggap niya ito hindi lang isang salita ng tao, "subalit bilang tunay na salita ng Diyos". Sa banal na libro, ang Ama na nasa langit ay dumarating na puno ng pagmamahal para salubungin ang kanyang mga anak at makipag-usap sa kanila. Tayo ang mga anak na ito mga Kababayan.

表)

※21節の「すべてを吟味しなさい」何をどのよりに吟味するのですか? (隣同士での分かち合いと全体での発表)

司教執務室 便り

信仰の先達者逝く

教区司祭会議後の会食時、「小平神父さんの兄上帰天」の訃報。「僕が行く」即座に答えた。昨年まで「うちの信者」だったから当たり前?ともあれ二週間の主任司祭代行からちょうど二週間後にまたも志布志に行くことになろうとは。

翌日の司祭定例会午後の部は新求道期間の道に

ついての日本代表の三人による紹介講話。三人の分かち合いはそれなりに感動的。一時間の質疑応答は意外と紳士的でホッ。「これまで聞いていたことと実際にホンモノの話とはずいぶん違って感動しました」。面と向かって対話することの大切さを痛感。

三人の労をねぎらう間もなく、あたふたと志布志へ。「通夜七時。皆さんに連絡を。六時前に着くので教会を開けておいて欲しい」携帯メールで連絡。信者たちは六時の集合を話し合っていたという。予想した通りというか、チームワークは二年後の今も高機能。なんとなく嬉しかった。一行七人。昼間に確かめたとはい

探しています!

野宿の方々の散髪して下さる方を求めています。ザビエル教会夜回りの会 世話人・山田 (tel226-2430)



大熊小教区初の女児侍者誕生 九月十六日に侍者会入会式

九月十六日(日)浦上教会でのミサ中、侍者会入会式がありました。小学二年生から六年生までの児童八人(内五人が女児)が新侍者となりました。女児の侍者は小教区では初めてのことでした。



きれいに手を合わせる侍者たち

主任司祭の橋口神父から手渡され、短い訓辞(まじめに務めるように)があり、指導者の嘉元伸一さんから「早くも侍者の中から聖職者の召命も期待されるが」とのコメントもありました。ミサ後、主任司祭ときれいに手を合わせた侍者たちは外のルルドの前で記念撮影をしました。

その後、信徒会館(ルルド館)でお祝いの茶話会をし、楽しい一日を過ごしました。新しい侍者は次の通りです。(敬称略)
前里一希、増根海夏、泉都喜嗣、赤塚大夢、福崎梨花、嘉元まりあ、小沼空見

曾根海帆
侍者会のきそく
①わたしは、ごミサや教会学校に、休まずくようがんばります
②わたしは、侍者にくれないようにします
③わたしは、ごミサのどうぐをきちんとあつかい侍者服を大切にします
④わたしは、べんきょうあそび、てつだいをがんばります
⑤わたしは、友だちとなかよくし、たすけあいます
(通信員 平 三國)

すべては家庭から始まる 女性信徒の会講演会で川添神父



十月八日(月)午後、鹿児島カトリック女性信徒の会(平野博美会長)の講演会がザビエル教会であった。講師は川添神父(熊本・帶山教会)

当たり前なのが大切と話す川添神父

で、九十人あまりの同会会員、信者たちが「家庭―愛といのちのきずな」について学習した。「家庭の中で生命は育ち、そこからすべてが始まる。だからキリストも家庭に誕生された」とする川添神父は、

現代の家庭ではとても大切なことが忘れ去られていると指摘し、改善して欲しいといくつかの例を挙げた。神父が指摘したのは「子どもに父母を敬うように教育すること」「質素でも母親の作る食事には力の源があるから、それを皆で食べること」「幼い子どもで自分の持ち物は持たせること」など。人を食ったような独特のリズムと語り口で聴衆を引きつけ、「家庭を通じていのちの文明は始まる。いのちの始まるところからすべてが始まる。家庭をしつかり活かして欲しい」と語った。

「短信」

▼巡礼伊集院
聖フランシスコ・ザビエルが当時の藩主島津貴久と謁見し、布教の許可をもらった伊集院一宇治城跡への徒歩巡礼が九月三十日(日)青年主催で行われた。参加者は二十五キロあまりの道を六時間余りかけて歩ききり、その後のミサでザビエルの遺徳を偲んだ。

▼マリアポリ
初代教会のように生きようとするフォコラーレ運動のマリアポリ(マリアの町)が、九月三十日(日)午前十時から夕方まで教区本部で開かれ、多くの信者が兄弟姉妹としての触れ合いのひとときを持った。
▼青年たちが聖歌練習
毎年、カテドラルでのクリスマス深夜ミサを担当している青年たちだが、十月に入って今年のミサのための聖歌練習を始めた。
▼M・E九州地区の集い
十月八日(月)教区本部に九州各地からのM・E会員数家族が集まり、分かち合いを行った。



11月18日は川内殉教祭 来て見て感じてください!

川内教会 石田 幹 雄

今年も薩摩の殉教者・レオ税所七右衛門の殉教祭が教区行事として、十一月十八日(日)川内教会であります。ミサを司式するのは郡山司教です。ペトロ岐部神父と一八七人の殉教者の列福式が、来

年平成二十年十一月二十四日に長崎で行われることが決まりました。この中の一人がレオ七右衛門です。殉教者は生きています。殉教祭で、これを感じ、味わってください。私たちの信仰を見つめ、いえ、自分

自身の信仰を見つめてください。殉教者の強い信仰に触れることで、自分の信仰はと考えると、皆さん、ぜひ、見て、感じてください。

どうじゃ! 28キロ 大物釣った美島神父



九月のとある日、生まれ故郷奄美大島で休暇を過ごした美島春男神父は、なんと百二十センチ、二十八キロものカンパチを釣り上げ、ご満悦。得意なのは、教会に人を引きずり込むことだけではない。

11月 今月の暦

- 1日(木) 諸聖人
- 2日(金) 死者の日
- 4日(日) 年間第三十一主日
- 8日(木) マリン神父叙階記念日(一九七五年)
- 9日(金) ラテラン教会の献堂
- ▼メニヒ神父霊名(テヨドル)
- ▼第四十九回カトリック看護協会全国大会・鹿児島純心女子大学・10日まで
- 10日(土) ガブリエル神父命日(一九七八年)
- 11日(日) 年間第三十二主日
- 18日(日) 年間第三十三主日
- ▼川内殉教祭・川内教会・13時
- ▼聖書週間・25日まで

神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。

各教区では、聖書への感心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。このような催しに進んで参加するとともに、自分でも積極的に聖書に近づきましょう。たとえば、毎日欠かさず聖書を一章ずつ読む方法や、ミサにあずかれなくても、ミサの聖書朗読の当日分を毎日読む方法も勧められています。

- 19日(月) レデンプトル会例会
- 20日(火) 奄美例会
- ▼三木巖神父命日(二〇〇〇年)
- 25日(日) 王であるキリスト
- ▼駐日教皇大使公式訪問ミサ・カテドラル・15時30分
- 26日(月) 駐日教皇大使公式訪問ミサ・名瀬聖心教会・17時
- 30日(金) 聖アンデレ使徒

黙想会のご案内

テーマ 今を生きる
講師 W・キツペス神父(レデンプトル会)
日時 12月8日(土) 10時~9日(日) 16時
場所 マリア山荘(霧島市溝辺町麓 三六一六―四)
申込み 西 〇九九五(六三三) 一九四三
宮地 〇九九(二六二) 四〇二二

ドイツにおけるスピリチュアルケアを学ぶため、十三日間(九月十五日〜二十七日)の研修旅行に参加しました。

ホスピスを六カ所、大病院と軍人病院を含む四カ所の公立病院、臨床パストラルケア研修センターをW・キッペス師と共に訪れ、ドイツ国内でスピリチュアルケアが実践されているのを見せていただきました。実際に患者さんと共に過ごしているスタッフとの対話の中で多くを学ばせていただきました。

ドイツのホスピス

日本のホスピスの多くはホスピス棟(緩和ケア病棟)で、医師が主導権をもっている印象が強いですが、私たちが訪れたドイツのホスピスの責任者は、経営者・管理職で、医療的なケアは看護師に任されています。がんなどの痛みのコントロールに関しては、経験豊富な看護師のほうに医師よりもきめ細かく適切に対処できるという説明には説得力がありました。

ドイツのスピリチュアルケアとホスピス研修旅行に参加して

吉野教会 松村恵理

医師は週に二回程度、治療というよりは病状に関してスタッフと相談するため訪れるとのことでした。人生の最期の時期を生きる患者さんの尊厳を守り生活の質を高めること、痛みをコントロールすること、ご本人の意思を尊重することを基本にケアがなされています。

子どもホスピス

子供を亡くされた経験をもちつ夫妻によって設立された子供ホスピスでは、「お祭りのように過ごさせてあげたい」と屋内プール、音楽やアロマ、光を使ったセラピーの部屋、横になったまま空を見、自然を感じられるようなガラスに囲まれた全天候型テラス、ウサギやハムスター、ろば(背中にのれる!)が飼われているミニ動物園まであり、ご

死を迎えると、病室を出てこの「お別れの部屋」に移されます。家族は、静かにゆつくり(望むなら数日でも)子供との最後の時間を過ごすことができるように配慮されています。プライバシーの守られた中庭もありました。「子供を手離す覚悟ができるまで待つ」という配慮を感じました。



④いつまでも子どもを偲ぶことのできる池
⑦故人の名が刻まれた生命の木

りにしたもの)が聖堂の壁に貼り付けてあり、全体が

夫妻にとつて、このホスピス全体が幼くして旅立ったひとり息子さんの生きた証となつていのように感じました。

深い絆

またあるホスピスでは、患者さんが「ここにいた証として「生命の木」を大切にしています。旅立たれた方の名前が書いてある小さなプレート(木を輪切

一本の木の形に見えるものはきつと両親に慰めを与えたと感じました。目に見えないわが子と共にいることを感じる瞬間でもあるように思いました。愛する者を失った痛みに向き合う人への配慮が形になつた空間でした。

文芸

俳句(思川俳句会作品)

市来房枝選

出水 遠竹 睦郎

鹿児島 徳永ノブ子

純心学園 川上 和

島裏の秋水溢れマリア像

阿久根 中津濱フサエ

鹿児島 春山マリ子

龍門司真人

鹿児島 龍門司真人

市来房枝選

大 口 森 博伸

鹿児島 前田 儀子

阿久根 中津濱フサエ

鹿児島 春山マリ子

田平新太郎

選者 詠

。(であること)を改めて感じ、マルタとマリア姉妹のことも思い出しました。生産性とはかけ離れた「見えないけれど、人間にとって大切なもの」に価値を感じて力を注ぐことがそれぞれホスピスの実践しているスピリチュアルケアでした。

終わりに

日本の福祉・医療の現場では、経済的なことが優先されるといふ厳しい現実があります。

それでも「見えないけれど、大切なもの」と共に生きようとする人が集まったところに、スピリチュアルケアの実践があると信じています。大切なのは、建物や設備ではなく、人。今私

にできることは、多くの人にスピリチュアルケアについて知ってもらい、そのことの大切さを感じた方に一緒に学んでいただくことだろうと思います。

例えば、傾聴という技術があります。私は、臨床パストラルケアの研修を通じて、内面を整理した静けさをもつて患者さんを訪問するために学び続けているところです。ささやかな歩みですが、めざす方向は見えてきました。

ちなみに来年度、鹿児島で臨床パストラルケアの研修が予定されています。「価値観の明確化」「人間関係とコミュニケーション」がテーマです。私も「自分らしく、よりよく生きること」について立ち止まって考える機会にしたいと思っております。ご参加をお待ちしております。

純心学園 川上 和

鹿児島 前田 儀子

阿久根 中津濱フサエ

鹿児島 春山マリ子

田平新太郎

選者 詠

夢にみしルルドを吾は訪れて聖歌うたひて沐浴待てり

選者 詠